

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家 (1号館)		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区一番三丁目8番25号		
自己評価作成日	平成24年 7月17日	評価結果市町村受理日	平成24年10月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2390900039-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2390900039-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 8月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の評価時の指導、指摘箇所について、真摯に受け止めてこの一年改善可能な部分は改善してまいりました。運営推進会議の意義、目的を改め地域との密接な関係作り(取り組み、町内のお宮さんなどの清掃活動にも積極的に参加し外出の頻度を増やしました、入居者様が楽しくお過ごしになれるよう努めています。また行政、医療関係との良好な関係の継続を行い、ご利用者様一人一人が健康で施設生活をおくれる様なホームを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は法人の理念を基に、『いつも笑顔でこんにちは、楽しく過ごそう毎日、ゆっくりお話しいたします。』をホーム独自の目標として掲げている。業務は少々遅れても、利用者のお世話を最優先にと指導し、職員もそれらを受け止め、意欲的に支援に取り組んでいる。  
又、利用者の楽しみである食事に関して、『嗜好調査』を行い、嗜好を反映した細やかな対応を行い、施設では敬遠しがちな生もの(刺身・寿司等)をメニューに揃えている。  
幅広い年齢層の職員のチームワークは良く、利用者へ寄り添う支援を徹底していることは、家族アンケートからもうかがえる。利用者・家族が安心して過ごせる温かいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を確認して毎月の職員会議により情報の交換、共有を図り実践に役立っている	法人理念を基に、管理者の目指す方向性を示したホーム独自の目標を掲げている。管理者・職員は共通理解に努め、情報の共有を図り、実践に繋いでいる。	ホーム目標を実践する中で、ホームとしての課題を明確にし、具体的な年度目標をたてて、日常ケアの中で実践に結び付ける取組を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時などは気持ちの良い挨拶を心がけ地域の一員であることを認識して頂けるよう努めている	町内会に加入し、神社の清掃等は月1回の当番を割り当てられ、地域の方々と同じ役割を引き受け、地域の中に深く溶け込んでいる。又日常の近隣の散歩ではお逢いした方々への挨拶を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時などに地域の方々と出来るだけご利用者様に関わって頂きながら間に入り会話を通じて理解や興味をもって頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活用し避難、防災訓練を実施し地域の警察署、消防署など意見を参考にサービス向上に活かしている	地域関係者(町内会長・生き生き支援センター・民生委員等)や利用者・家族の参加の下、年6回確実に開催しホーム運営に有効に活用している。	議事録をより具体的に『誰にどのような意見を頂いたか』等を残していく事で、参加出来なかった方々にも解りやすい議事録とされる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所保護係の方々やいきいき支援センター、ボランティアセンターの方々と連携をとり協力関係を築くよう努めている	区役所生活保護課よりの困難事例に対して積極的に協力し、行政との信頼関係を構築している。又区内グループホーム連絡会を立ち上げ、いきいき支援センター主催の講演会にも参加・協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待についての正しい知識をマニュアルや講習にて理解を深め実践に活かしている	職員は、身体拘束が利用者にも与える身体的・精神的な弊害を正しく理解している。又徘徊行動等、一人ひとりの状態を把握して、利用者との関係構築により施錠する事なく自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内講習等において虐待防止の勉強をする機会を持ち日頃の介護の中でも意識して防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターとの連携により必要な方に活用してもらえる様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時には重要事項説明書にて同意を頂きご家族様のご要望、ご意見をお尋ねし納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月のご家族様へのお手紙にて近況報告を行い、ご家族様からもご要望等を伺うようにしている、ご利用者様、ご家族様の要望に添えるよう努めている	毎月、請求書を取りに来て頂き、その際に状況報告をし、意向を聴いている。『自分を特別扱いして欲しい』との意向に対し、食器・箸・コーヒーカーップ等持参して頂き、他の利用者とは違った食器で満足された事例もある。	家族アンケートのコメント記述が減少傾向にあるので、減少に歯止めをかける取組を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開き職員全員による意見を聞く機会を持つ	職員会議では意見を出し合い、職員の歓送迎会等のインフォーマルな機会を通して意見や提案が出来るように配慮している。1周年記念行事をはじめ、月行事・祭り行事等は職員が企画・実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを感じる職場の環境整備を図る		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員、上級救命講習、受講、また無理なく色々な研修に参加出来る様努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の集まり、研修会などで意見交換を行いサービス向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様からご要望、心配ごと、今までの生活歴などを傾聴し安心して生活して頂けるように関係を築く努力を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様の一番の理解者、ご家族様とよく話し合いを行い最善のサービスが提供できるよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様のご意見、状況を考えながら必要な支援を見極めた上でサービス提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない一言にも気を配り、出来る限り心に寄り添えるよう普段から会話を大事にしながらケアを行うよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来設された時間を大切にしご家族様とご本人様との間に入り距離を考えながらお互いに支えあえるような関係を築いていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる友人、知人様がまた来るねと言って下さるような雰囲気作りを心がけている、ご利用者様とゆっくり過ごせるよう配慮している	来所される友人・知人(町内会の人・世話になった人)がゆっくりくつろいだ時間を過ごせる雰囲気作りに努めている。普通った岐阜の教会から便りが来て、神父さんの訪問も年2回ほど続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、散歩などで共同生活を楽しんで頂き職員が間に入って世間話等をして楽しんで頂けるように努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用に関しても随時相談や支援を行い退去後も良好な関係を保つよう心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動からご利用者様の思いや要望を把握するよう努めている	利用者が希望を述べる事は殆どない。食事・散歩・入浴・買い物でのつづやきの中からの利用者の新しい情報(生活歴・思い)は、職員の間に残すのではなく、カンファレンス等で取り上げ職員間で共有している。	つづやきの中から利用者の叶えて欲しい真の馴染み(馴染みの人・馴染みの場所・馴染みの食べ物等)を把握し、誕生日プレゼント等として思いを叶える取組を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、御家族様から生活歴などを聴取し情報収集表に記録して職員全員が把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握、また変化も見逃さないように注意しながら職員間での情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、担当者会議の実施、ご本人様やご家族様から直接要望や意見を伺い介護計画を作成している	介護計画は利用者・家族本位に立案され、日々のケアに活かし、『計画・実践・記録・モニタリング』と解りやすく展開している。家族アンケートからも、介護計画が家族に解りやすく説明されている事が読みとれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、詳細記録に記入し情報を共有しながら日々のケアに活かし見直しも行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其々のご本人様、御家族様の状況に配慮し柔軟に受診や買い物などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが活用できる地域資源を把握し、もっている力を発揮できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診があり、その他の協力医などは御家族様と協力して行っている	内科は提携医の往診が月2回あり、提携医とは24時間連絡可能で、利用者・家族の安心に繋がっている。又他のかかりつけ医等への通院は、家族の付き添いで行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の訪問により状態の報告、相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には病院を訪問し病院関係者から状態を伺ったり相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医への相談、御家族様との話し合いを行い、地域の関係者とも連携を取りながら支援している	病院からホームに帰ってくると利用者の表情が良くなる事から、家族は『ここで最後まで見て欲しい』と希望している。管理者・ホーム長は利用者・家族の希望に添う支援を目指し、主治医との連携・職員の研修を行い、惑う事がない看取り支援を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、上級救命講習、受講、取得する、緊急時の対応に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害対策マニュアルに基づき日頃から訓練などを行っている、消火訓練も実施している	年2回避難訓練を実施している。今回の日中訓練では2階の全員避難には7分と、前年度より大幅に短縮出来た。又消火器訓練は運営推進会議と合同で行い、地域の方々にも参加して頂いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	永く人生を歩んでこられた方々として尊敬を忘れず人格を尊重して接している	日頃から人生の先輩である事、人格を尊重する事を周知しながら言葉かけや対応に心がけている。訪問当日、『興奮・不穏行動の利用者』に対して、職員の冷静で人格を損ねない対応の現場を見る事が出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話などの中でご希望を傾聴し自己決定出来る様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを出来るだけ壊すことのないようにつとめる、時間外の入浴も前向きに行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を二か月に一度利用している、また清潔に洗濯をした衣類を提供しその人らしい身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、トレイ拭き、食器の後片付など一緒にお手伝いして頂いている、ご利用者様の好きな食べ物を提供できる様努めている	嗜好調査により、利用者の好きな物を提供し、特に刺身・寿司など家庭で喜ばれる献立を揃えている。寡黙な男性利用者が、歩行困難な方の下膳をさりげなく手伝う等、利用者間で支え合う微笑ましい姿もあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏には入浴後スポーツドリンクなど飲んで頂いたり水分補給には気を付けている片寄の無い様魚、肉、野菜のバランスを一日として配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けにて歯磨き、うがいをして頂き習慣となるよう努めている、就寝時には義歯は朝まで洗浄を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うことにより失禁など少なくなり布パンツへの変更も行っている	トイレでの排泄を大切にして、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行っている。その結果、リハビリパンツより布パンツに改善出来た事例が2名あり、家族からも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを知ることで主治医との連携により便秘薬の処方もして頂きスムーズに予防に取り組める、また体操、水分補給にも気を付けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている、入浴時間も決めてはいるが、許す限り希望にそえるよう努力をしている	男性・女性のトラブル回避のために、週間の入浴予定表を掲示している。又利用者の希望に応じ、夕食後の入浴支援も行っている。入浴拒否の利用者に対しても、強制しない寄り添う支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調や状況で居室での休息を促した、声掛け、誘導を促し居室で休んで頂く、室温にも配慮し安眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の体調を把握し職員間で意見交換を行い主治医に相談、指示に従い症状変化あった場合直ちに主治医に連絡する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備のお手伝い、洗濯物のたたむ作業、カレンダーめぐりなど各々お手伝いの役割をもってもらい活力と楽しみのある支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様と一緒に近くのコンビニ、スーパーへ買い物に行く御家族様との外出、墓参りなどにも外出される、毎日の散歩は実施している	車椅子の重度化の利用者も含めて、日課で近隣の散歩を行っている。必要な物があれば利用者と一緒にスーパー、コンビニ等に出かけている。職員は現状に満足することなく、行事的外出で遠出する支援への想いが強い。	職員の行事的外出で遠出をさせたい思いを叶えるために、ボランティア・家族の協力を得ながら実現する事を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理を行っている、本人希望により買い物、喫茶店などに職員と出かけることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様の要望など聞いてご本人様の希望がかなう様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所にて不快な思いをしない様清潔の保持に努めている、壁パネルには季節ごとの作品をご利用者様と一緒に作り楽しんで頂いている	明るい日が差しこむリビングは、猛暑の続くこの夏も程よい室温に保たれ、清潔で快適な生活空間である。壁面にはヒマワリの貼り絵を飾り、『これ、私が制作中』との声があった。リビングでは、利用が新聞を読んだり洗濯物を畳んだり思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置してテレビを観たり、料理を作る傍らで職員とお話出来る様に椅子を置いたり自由に移動して頂く空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の家具、寝具など安心できる工夫と共にレクリエーションで作成したものを飾られそれぞれの個性を生かした空間になっている	鏡台・タンス・テレビ等思いでの詰まった品物が持ち込まれ、自宅と変わらない雰囲気のある居室、器物破損行為のある利用者の安全対策の施された居室等、個性を配慮した職員の気配りを感じさせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安な方の移動がスムーズに出来る手摺り、トイレ内の手すりなど残存能力を活かせるよう安全な工夫をしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390900039		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム名古屋熱田の家 (2号館)		
所在地	愛知県名古屋市熱田区一番三丁目8番25号		
自己評価作成日	平成24年 7月17日	評価結果市町村受理日	平成24年10月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2390900039-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2390900039-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 8月 8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

前回の評価時の指導、指摘箇所について、真摯に受け止めてこの一年改善可能な部分は改善してまいりました、運営推進会議の意義、目的を改め地域との密接な関係作り(取り組み、町内のお宮さんなどの清掃活動にも積極的に参加し外出の頻度を増やしました、入居者様が楽しくお過ごしになれるよう努めています。また行政、医療関係との良好な関係の継続を行い、ご利用者様一人一人が健康で施設生活をおくれる様なホームを目指します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念、目標、当ホームの目標を毎週の本部よりの朝礼で確認、共有し実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、水防訓練、神社の清掃などに参加している、毎日の散歩では挨拶を大切にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方々への認知症への理解や支援の方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活用し、ボランティアなどのより様々な行事を行いサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所保護係との連携にて保護受給者の入居にも前向きに取り組んでいる、いきいき支援センターとも連携し熱田区グループホーム連絡会を立ち上げ定期的に会合を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームによる様々な課程や講習を定期的に行い禁止となる行為を正しく理解し実践している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループによる様々な課程や講習、その他の講習会などに参加し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センター、その他のNPO法人との連携を行っている、またグループによる課程にて学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にきちんと理解して頂けるよう説明している、また変更等がある際は再度、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談内容記録表を作り相談を記録として残り運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開き、意見や提案を聞き運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月給正社員や日給正社員など働きによって条件が異なるようになっていると共に評価が反映されるようになっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、外部研修参加できるように案内を随時連絡している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熱田区グループホーム連絡会に参加し同業者との交流を行っている、グループ内他ホームとも連携している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様とお話をする機会を多くとり様々なご意見を傾聴しサービスへと活かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とのお話をする機会をつくり様々なご意見、ご要望をサービスに活かしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供導入時点で今なにが必要かサービスの優先順位を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作りや掃除など本人の出来る限り声掛けし参加している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お手紙として本人の状況を連絡し共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方々も気軽に面会できるように努めている、お手紙などでの関係作りも取り入れている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を理解し共同生活やレクリエーション等を通じて関わり合いを持てるようにし孤立することがない様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も職員が面会に行くなどしている、御家族様も退去後にお顔を出して頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様のご要望を様々な生活のなかで把握する様に努めている、嗜好調査を年二回実施している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご本人、御家族様より聴取した情報を記録し共有できる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、カンファレンスを行い現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様を交えてのカンファレンスも行っており介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス内容に基づき介護計画を作成し、介護記録、詳細記録を基に見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医以外にも、それぞれに対応した病院への受診支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミュニティーセンターなども活用し豊かなくらしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月二回の往診や皮膚科の週一回の往診がある		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の訪問により状態の報告、相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医からの情報提供と共に施設としての情報提供も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見を聞きご家族様等との話し合いをして共に支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員上級救命講習を受講、取得、緊急時の対応マニュアルの準備をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、避難、消火訓練を行っている、風水害対策マニュアルなど作成してある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩、人格の尊重を徹底し、言葉遣い、接し方に配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活、会話の中で本人の思いや希望を傾聴し自己決定出来る様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせて決定出来る様支援している、入浴時間も柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る様に着替えなどを支援している訪問理容も利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや下膳など出来る限りお手伝いして頂いている、嗜好調査にて好みを把握するよう、努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスには配慮している、水分量も食事以外でも摂取出来る様支援している、必要に応じて摂取量を調査している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて歯磨きをして頂く、支援が必要なご利用者様にはガーグル等を用いて介助している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその人に合った形態のパンツやパットでの支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や、散歩、体操などにより身体を動かす機会を増やし、水分摂取量も配慮している、主治医による下剤も処方されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている、希望があれば時間外でも対応できる様に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や状況に合わせて休息出来る様支援している、室温への配慮を大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無い様に複数の職員によるチェックシステムを実施している、症状の変化があればいつでも主治医に連絡が取れる様になっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり可能な限りの役割を持って頂き自分から進んで行って頂けるよう声掛け支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の実施、行事としての外出や買い物への同行など外出の機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、希望があれば職員同行にて買い物の支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解を得て電話などが出来る様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に合わせた室温設定をしている、毎月壁面ボードの飾り付けをご利用者様と共に制作している、		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどで気の合ったご利用者様どうしで会話出来る様支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の持ち込みの家具を置けるようにしている、ベッドの位置の変更なども柔軟に対応している、		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の状態に合わせて電動ベットやポータブルトイレなどを設置している居室の変更も行ったことがある		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム名古屋熱田の家

## 目標達成計画

作成日: 平成 24年 10月 4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議について、進め方、内容等についての問題	参加者メンバーの全員参加を目指し、メンバーとの質疑応答により貴重な意見を頂き、今後の運営推進会議に活かしていく。	地域住民をお迎えして認知症サポーター等の講習会の開催を目標に取り入れ地域住民との交流を深め信頼関係を構築する。	6ヶ月
2	49	日常的な外出支援について	利用者本位を基本に声掛けにて本人様の物品等の買い物やスーパーへの買い物等の支援を増やす。	本人様の生活必需品、履物、衣類等を職員同行し購入劇の様外出支援を行い食材等の買い物にも一緒に行ける様外出支援を行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。